

就任あいさつ

手術部 中島 博之



2025年4月1日付で手術部部門長を拝命いたしました中島博之です。私は心臓血管外科を専門としてまいりましたが、このたび病院全体の手術部門の運営を担うこととなりました。山梨大学病院は県内唯一の特定機能病院として高度

な医療を提供していますが、その中心的役割を果たしているのが手術部です。年間約7,000例の手術を行う14室を統括し、患者さんに安全で質の高い治療を届けることが私たちの使命です。

手術部では、中央・外来の両手術部門において効率的な手術枠の調整、医療器材の整備、手術環境の維持を行っています。さらに、移動式3テ

スラMRI手術室、ハイブリッド手術室、バイオクリーン手術室などを備え、ロボット支援手術機器「ダビンチ」も3台稼働しており、複雑で高度な術式にも柔軟に対応できる体制を整えています。

しかし、こうした最先端の設備も、それを支える職員一人ひとりの力なくしては意味を成しません。医師、看護師、臨床工学技士、薬剤師、放射線技師をはじめとする多職種の皆さんが連携し、チームとして動くことで初めて、患者さんに安全と安心を提供できます。緊急手術や感染症患者さんへの対応も含め、日々の現場を支えてくださっていることに心より感謝申し上げます。

今後も患者さんに少しでも早く、そして安心して手術を受けていただけるよう、皆さんとともに良い体制を築いてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

就任あいさつ

放射線技術部 池川 博昭



このたび、2025年4月1日付で診療放射線技師長ならびに放射線技術部長を拝命いたしました。これまで臨床の現場にて診療放射線技師としての経験を積んでまいりましたが、今後は部長という立場から、放射線技術部全体の運営と発展に尽力してまいります。

山梨県下における高度医療の中核として、当院が果たすべき責務はますます重要性を増しております。その中で、質の高い画像情報の提供、精度の高い放射線診療および治療の実施、適正な被ばく線量管理を通じて、患者さんに安全・安心な医療を提供することが、私たち放射線技術部の使命であると考えております。

昨年度末には最新のCT装置を導入し、低被ばくで高精細な画像の提供と検査効率の向上を図りました。さらに本年度にはIVR-CT装置の導入も予定しており、低侵襲治療への対応力を高めることで、より幅広い診療ニーズに応えられる体制づくりを進めています。

今後は、医師の働き方改革を支援する取り組みの一環として、読影支援を担うSTAT画像所見報告体制の整備を進め、診療放射線技師によるタスクシフトの推進と、それを支える人材育成に注力してまいります。併せて、世代交代の時期を迎えた今、新たな組織づくりを進めながら、多職種と連携し、より質の高い放射線医療の実現を目指してまいります。

引き続き、ご指導ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

業務支援センター 松原 寛知



2025年度より新体制で発足した総合支援部の一翼を担う業務支援センターのセンター長を拝命いたしました、松原寛知と申します。これまで外科診療の現場で、患者さん一人ひとりの不安や希望に寄り添いながら治療

にあたってきた経験を活かし、「また山梨大学附属病院を受診したい」と思っていたような医療と環境を届けることを目指しています。

そのために、患者さんが快適に受診できる環境づくりと、医療現場の業務負担の軽減に取り組んでまいります。当センターでは、外来支援や診断書支援などを通じて、医療サービスの質の向上と業務の効率化を目指

しています。例えば、外来では混雑時の対応強化として、自動音声ガイダンスの導入や、予約変更センターによる電話対応の改善を進めてきました。

これにより、受付や看護師の負担軽減と、患者さんの待ち時間短縮が期待されています。また、診断書支援では、診断書作成状況確認サービスを導入し、患者さんご自身で進捗を確認できる環境を整えました。

今後は、死亡診断書の電子化による作成業務の効率化なども予定しており、さらに業務改善を進めていく所存です。これからも、現場の声に耳を傾けながら、実効性のある支援体制を構築してまいります。日々の小さな改善の積み重ねが、結果として病院全体の質向上につながると信じて、職員の皆さまと協力しながら着実に歩んでいきたいと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

臨床教育部 近藤 哲夫



このたび、2025年7月より山梨大学医学部附属病院 臨床教育部長を拝命いたしました。医療を担う人材の育成という重責を担うにあたり、改めてその責務の大きさに身の引き締まる思いです。現在、医療を取り巻く環境

は大きく変化しており、医療の高度化・専門化が急速に進む中で、「患者中心の医療」の継続と、医療の質と安全性のさらなる向上が強く求められる時代となっています。このような背景のもと、「確かな診療能力」、「使命と責任の自覚」、「豊かな人間性と高い倫理性」を備えた医療人の育成こそが、臨床教育部の最大の使命であると考えております。

臨床教育部は、臨床実習センター、臨床研

修センター、専門医キャリア支援センター、特定行為研修センター、医療スタッフ研修センター、シミュレーションセンターの6つのセンターで構成されており、各診療科の教育医長、看護部、事務部門と連携・協力しながら、附属病院すべての医療専門職を対象とした教育・研修に取り組んでいます。また、医学生に 대해서는、地域住民ボランティアの協力による医療面接実習や、豊富なシミュレーション機器を用いた基本的臨床手技トレーニングなど、低学年からの臨床演習を臨床教育部が中核となって展開しています。

良質かつ最適な医療の基盤となる臨床教育の推進に、誠心誠意取り組んでまいりますので、今後とも皆様のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

就任あいさつ

シミュレーションセンター長 加賀 重亜喜



2025年4月よりシミュレーションセンター長を拝命いたしました加賀重亜喜と申します。これまで心臓血管外科の一員として、診療と教育の現場に立ちまいましたが、このたび本学の医学教育を支えるシミュレーションセンター

の運営に携わることになり、身の引き締まる思いでおります。

当センターは2023年度に診療支援棟4階へ移転し、約500平米の広々とした空間に、模擬病室や手術室、内視鏡・超音波・血管内治療機器、さらには手術支援ロボットなどを備えた、全国でもトップレベルの設備を誇る教育施設へと生まれ

変わりました。これは、本学が持つ教育資源の大きな強みのひとつです。

近年の医学教育では、「知識を詰め込む」だけでなく、「実際にやってみる」「チームで協力する」といった“実践力”がますます重視されています。シミュレーション教育は、医療の安全を守るうえでも、チーム医療を進めるうえでも、欠かせない存在です。医学生や研修医はもちろん、看護師や特定行為研修修了者、さらにはコメディカルスタッフなど、すべての医療職にとって有効な学びの場となっています。

このセンターは、山梨という地域の中で、医療の質と安全を支える“学びの拠点”でもあります。若手医療人の地元定着や、地域医療の未来をつくる力につながることを願いながら、日々の運営に努めてまいります。

どうぞ今後とも、あたたかいご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

働き方改革センター長 中島 歩



このたび、山梨大学医学部附属病院の働き方改革を推進するため、働き方改革センターが設置され、センター長を拝命いたしました。

働き方改革センターは、山梨大学医学部附属病院に勤務する全ての職種における勤務環境の改善と業務効率向上の推進、持続可能な働き方を構築することを目的としております。

長らく労務管理を担当されてこられた波呂 浩孝 副院長のご指導のもと、小川 陽一 副センター長とともに以下の業務を担当してまいります。

- (1) 本院すべての職種の勤務環境・労働時間の改善
- (2) タスクシフト及び業務改善の推進
- (3) ワークライフバランス推進及び柔軟な働き方等の検討
- (4) 働き方改革に関する啓発活動
- (5) その他センターが必要とする業務

新しく設置されたセンターでございますので、どうか皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

病床管理室 三井 貴彦



このたび、病床管理室長を拝命いたしました三井貴彦と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

病床管理室は、2025年4月に病院長直轄の部署として発足いたしました。急性期医療を担う当院において、限られた医療資源を最大限に活用し、最適な医療環境を提供するための要となる部署です。入院・転棟調整、空床の把握・管理、各診療科・病棟との連携を通じて、病床の有効活用を図る役割を担っています。

また、緊急入院や転院時の迅速な病床確保にも対応し、患者さんが適切なタイミングで入院できるよう支援しています。院内の病床状況をリアルタイムに把握し、迅速な調整を行うことで、平均在院日数の適正化や円滑な受け入れにつなげています。

今後も現場の声にしっかりと耳を傾け、実情に即した運用改善に努め、全職種と連携しながら、患者さんが安心して入院できる環境づくりに貢献してまいります。何卒ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

今後とも変わらぬご指導・ご協力をお願い申し上げます。

就任あいさつ

副看護部長 穴水 美和



今年度より副看護部長に就任いたしました。旧5階東病棟に入職し、外来、医療福祉支援センター、6階南病棟など様々な部署で経験し、「患者さんが安心して通院、入院、そして退院後の生活が送れるために必要な看護は何か」を考えてまいりました。

特に医療福祉支援センターでは、地域包括ケアシステムをスムーズに機能させるため、医療機関やクリニック、訪問看護ステーションなど多くの関係機関と連携し、ネットワークを築く過程にかかわれたことは非常に貴重な経験となっております。

当院看護部の理念であります「患者さん一

人ひとりの健康問題を解決するために共に考え看護を提供する」は私の看護の基本となっております。

入院は生活をしていく上でのひとつの通過点にすぎません。しかし、その生活を大きく変化させなくてはならないかもしれません。私たちは患者さんが新たな生活を再構築できるよう支援し、そこに責任を持つ必要があると考えています。

また、患者さんに寄り添う看護を届けるためには、私たち看護師自身の心身ともに健康であることが不可欠です。看護師が働きやすく、充実感を持って働ける組織づくりに努めてまいります。

今後とも変わらぬご指導・ご協力をお願い申し上げます。

就任あいさつ

副看護部長 山本 智子

2025年4月1日より、看護部副看護部長を拝命いたしました山本智子です。

2003年に入職して以来、内科病棟での勤務を経て、集中治療室では師長としてICU12床への運用拡大や新型コロナウイルス対応など、幾多の困難な状況の中でもスタッフと支え合いながら乗り越えてまいりました。これらの日々は、現在の私の礎となっております。

その後は情報・診療報酬担当師長として、電子カルテシステムの更新に携わり、看護記録の整備を進めてまいりました。診療報酬改定への対応や、重症度、医療・看護必要度、様式9の把握などは、特定共同指導を通して看護部全体で理解を深めることができました。

現在は業務担当副部長として、日々試行錯誤を重ねながら、現場の声を反映した電子カルテのさらなる活用促進と業務の標準

化に取り組んでおります。特に、看護業務改善委員会では、入院・退院・情報収集・カンファレンスの視点から業務改善を進めておりますが、入院時や退院前、注射や処方に関する指示出し・指示受けの業務改善には、先生方をはじめとする多職種の皆様のご理解とご協力が不可欠です。

今後も、チーム医療の推進に向けて、すべての職種の皆様との連携と情報共有を大切にし、患者様にとってより良い看護の提供ができるよう、これまでの経験を活かしながら誠心誠意努めてまいります。

看護管理者として至らぬ点多々あるかと存じますが、今後ともご指導・ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

NICU 病棟看護師長 清水 陽子



2025年4月1日付けで新生児特定集中治療室(NICU)師長を拝命いたしました清水陽子です。

私は山梨大学附属病院に入職後、小児科病棟に配属されて以来、NICU、新生児治療回復室(GCU)と、小児看護の経験を積み重ねてまいりました。療養環境が子どもにとって安全で安心な環境であること、ご家族にとって安心な医療の提供を行うため、NICU病棟では「あかるく・やさしく・あたたかく」をモットーに看護にあたっています。

先天性心疾患をはじめとした小児外科疾患や早産・低出生体重児、染色体異常症等、疾患を持つお子さまや社会的背景が複雑なお子さまを

お預かりし、0.1ml単位の薬を扱い、0.1℃の体温管理を行う、大変細やかで繊細なケアを要し、緊張感の高い場所ではありますが、治療の場であると同時に子どもや家族が育つ場所でもあります。子どもの治療について選択を迫られたり、生まれたばかりのわが子と一緒に過ごすことができないご家族の苦悩ははかりしれませんが、ご家族の気持ちに寄り添い、疾患を持った子どもたちが家族の中であたたかく育まれるよう、産科やGCU、退院支援室等と連携しながら、家族のはじまりを支援していきたいと考えています。

NICU病棟が、患者さんだけでなく関わるすべてのスタッフにとって「あかるく・やさしく・あたたかい」場所であるよう、看護管理者として日々成長しながら全力を尽くしていきます。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

就任あいさつ

4階西病棟看護師長 山本 瑠実



2025年4月1日付で、小児病棟看護師長を拝命いたしました。当病棟では乳児から思春期のお子様まで幅広い年齢のお子様の入院・治療に対応しております。主に15歳未満の小児患者が入院する病棟であり、小

関わっていきたいと思っています。

私たち看護師をはじめ、医師、薬剤師・リハビリスタッフ・保育士など様々な専門職が連携し、チームでお子様一人一人に寄り添ったケアを実践しています。お子様の「今」だけではなく、「未来」も見据えた関わりを心掛け、成長、発達の支援にも力を入れ、地域との連携も積極的に行っています。

管理者としての経験も浅く、未熟ではありますが、スタッフと共に成長していきたいと思っておりますので、今後ともご指導よろしくお願いいたします。

児科だけでなく全科の急性期、短期入院の小児患者や手術目的の入院患者も対象となります。長期入院の患者様も多く、両親と離れ、不安な中治療を受けています。

私たち看護師はスムーズに治療が行えるようお子様に寄り添い、お子様の尊厳を大切にしながら安心して療養生活が送れるよう

就任あいさつ

5階南病棟看護師長 清水 美紀



2025年4月1日付けで、5階南病棟の師長を拝命いたしました。未熟な点も多く、新人師長として学びながらの日々となりますが、皆さまのお力をいただきながら、誠心誠意努めてまいります。

5階南病棟は、心臓血管外科・循環器内科、呼吸器外科・内科、糖尿病内科が主の病棟となっております。外科手術、循環器内科での心臓カテーテル検査、急性期から慢性期まで幅広い年齢の患者さんを受け入れており、日々高度で専門性の高い医療が行われています。ICUとの出入りも多く、急変対応やモニター管理が欠かせない緊張感のある現場です。確かな知識

や技術を求められる環境だからこそ、一人ひとりの患者さんやご家族の思いに寄り添い、心の通う看護を大切にしたいと考えております。

また、共に働くスタッフ一人ひとりが安心して意見を述べ、挑戦や力を発揮できる「心理的安全性」の高い職場環境を築いていきたいと考えております。日々の業務が忙しく大変な中でも、困ったときに声をかけ合い、笑顔で互いに支え合えるチームでありたいと思い、温かくアットホームな空気を大切にし、一人ひとりの声に耳を傾け、「この病棟でよかった」と患者さんにもスタッフにも感じていただけるような病棟を目指していきたいと考えております。未熟な点も多くありますが、スタッフと共に成長していきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

5 階北病棟看護師長 山中 浩代



5北病棟の師長を拝命いたしました山中浩代と申します。

当病棟は外科と内科の混合病棟で平均稼働率は93%、多い時には116%に達する非常に入退院の激しい病棟です。そのような状況の中

でも患者さん一人ひとりに専門性の高い看護を提供できることを目指し手術室、血管撮影室、外来、透析室などスタッフが希望した部署実習を全員に経験してもらっています。

現在の業務にとどまらず自分なりの“興味”や“可能性”を発見し、どんな看護師に

なりたいか目標を持ってほしいからです。忙しい毎日の中でも、患者さんとの対話を大切にし、その人らしさに寄り添う看護を実践できるような環境を整えていきたいと考えています。

今後は、育児をしながら看護を続けるスタッフも増えていくと予想されますので育児しながら看護師を続けられる職場環境をスタッフと共に作っています。働く看護師を支援、共に成長できる病棟づくりを目指してまいります。今後ともご指導、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

就任あいさつ

7 階北病棟看護師長 相川 真弓



2025年4月1日付で7階北病棟の看護師長を拝命いたしました。私は、2000年に当院へ入職後、消化器外科・消化器内科・皮膚科・形成外科・整形外科を経験してまいりました。その過程で、ストーマケアや創

傷ケアを必要とする患者様が抱える様々な問題を知り、少しでも力になりたいという思いから、皮膚・排泄ケア認定看護師資格を取得し活動してまいりました。

7階北病棟では、消化器外科・呼吸器外科・消化器内科を中心に、多くの患者様が外科的治療を行うため、術前・術後を安心して過ごすことができるよう、スタッフとともに

日々努めております。変化の多い医療現場において、責任ある立場を担うことに、身の引き締まる思いです。

これまでの経験を活かしながら、患者様お一人おひとりに寄り添える看護を目指し、スタッフ皆と力を合わせて、温もりのある療養環境づくりに取り組んでまいります。また、他職種との連携を大切に、チームとして支え合える体制づくりにも力を入れていきたいと思っております。スタッフが笑顔で働ける、そして「ここで働けてよかった」と思えるような職場にしたいという気持ちを大切に、日々学びながら歩んでまいります。

どうぞ今後とも、ご指導・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

「看護功労者」「県民の看護師さん」の受賞

2025年5月16日、山梨県看護大会が山梨県および山梨県看護協会等の主催により甲府市内で行われ、当院の岩澤久美看護師長、蓮沼知津子看護師長が「看護功労者」を、沼口香織看護師が「県民の看護師さん」を受賞しました。おめでとうございます。

<受賞者コメント>

◇ 看護功労者受賞 ◇ 看護師長 岩澤 久美

このたびは、看護功労者の表彰を受け、大変光栄に存じますと同時に身の引きしまる思いです。今日まで支えてくださいました諸先輩方や同僚、家族、友人に感謝の気持ちでいっぱいです。これまで多くの患者さんと出会い、「その人らしさ」を大切に関わらせていただき、看護の喜びや楽しさを学べたこと、ある先輩から「役割は成長できるチャンス」との言葉

励みとなりました。

現在は医療福祉相談室で、患者さんやご家族からの多岐にわたる相談を受け、安心して外来通院や入院生活が送れるよう支援させていただいています。今後も病院の理念である「すべての患者さんに『安心』を」の実現に向け精進してまいります。



◇ 看護功労者受賞 ◇ 看護師長 蓮沼 知津子

このたび、看護功労者として表彰をいただき、身に余る光栄に存じます。入職から今日まで、日々の看護を支えてくださった患者さまをはじめ、共に歩んできた同僚、導いてくださった先輩方に心より感謝申し上げます。今の自分があるのは、関わってくださった皆さまのおかげと改めて実感しております。この受賞を励みに、これからも一人ひとりの患者さま

に寄り添う看護を大切にし、後進の育成や組織への貢献に努めてまいります。ありがとうございました。



◇ 県民の看護師さん受賞 ◇ がん相談支援センター看護師 沼口 香織

このたび「県民の看護師さん」という栄えある賞をいただき、大変嬉しく思います。日頃より支えてくださる看護部や関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

がん放射線療法看護認定看護師として、放射線治療を受ける患者さんやご家族の不安やつらさに寄り添い、安心して治療を続けられるよう努めてきました。現在は、がん相談支援センターの相談員として、

治療や暮らしの悩みを受け止め、必要な支援へとつなぐ役割を担っています。これまでの経験を活かし、多職種連携の推進や院内スタッフの支援を通じて病院全体の看護の質向上に貢献するとともに、自己研鑽を重ね、より良い看護の実践に努めてまいります。

